

ふじい弘之 ちば県政報告

平成30年 春号



津波から県民の命を守る

東日本大震災の震源域は、480kmの長さに及びましたが、実は房総沖の地殻は動いていません。その一方で、三陸沖に設置されている海底センサーが房総沖にはありませんでした。



そこで、私は2011年6月議会（6月22日）で房総沖や野島崎沖にもセンサーを設置するよう訴えました。

森田知事も房総沖地震は調査研究が十分でないとして「津波監視体制の強化などについて国に要望してまいりたい」と答弁されました。

その後、2013年からケーブルの敷設が始まり、一年半かけて海底ケーブル工事が完了しました。

私たちは、2014年8月に敷設した防災科学技術研究所（つくば市）を訪ね、1ミリ単位で津波の監視ができること、従来よりも10分早く津波情報を出せることなどを確認しました。

そして、このたび平成30年度予算案に『千葉県津波浸水予測システム整備事業』が盛り

込まれたのです。

これは、海底ケーブルの地震・津波計の観測データを専用回線で受信し、県が詳細な津波情報を市町村へ配信する事業です。いよいよ平成32年度には九十九里・外房沿岸地域に配信が開始される予定です。県民の安全安心が、また大きく前進します。

チバニアン認定に尽力

地球史において、77万年前から12万6000年前までの年代が「チバニアン（千葉時代）」という名称になるかもしれません。

巨大な磁石である地球のN極とS極は何度も逆転していました。その最後の逆転が77万年前だったことを示す地層が市原市田淵にあるのです。

2010年2月議会で、この地層をジオパークとして学習や観光に活用すべきと訴えたのが公明党です。

その後、記者を現地に案内し、知事に申し入れをし、地域の皆さんと看板を立て、県議会にジオパーク構想推進議員連盟を立ち上げました。

そして、よう



やく2014年に国立科学博物館がこの地層の常設展示に動き出し、2017年に国際学会の第一次審査に通ったのです。

何年もの間、この地層を研究し続けてきた研究者や守ってこられた地元の皆様のご努力に心から感謝いたします。

ビッグデータで事故防止を

2017年7月27日、千葉県警察本部は本田技研工業と「交通安全対策の推進に関する協定」を締結しました。ホンダ社製のカーナビ情報から急ブレーキ多発場所を把握し、事故防止に役立てようという取組みです。

2011年6月議会において、私は次のような訴えをしました。

「自動車メーカーが埼玉県に協力をしてインターナビ・フローティングカーデータを用いた急ブレーキ多発箇所、多発地点の調査を行い、その対策を行っておりました。1年以上をかけた調査、対策結果を見てみますと、急ブレーキ多発箇所27カ所のうち、安全対策を実施した16カ所で急ブレーキの数が7割減少したと伺っております。私は、基本的に道路改良、交差点改良で事故は劇的に減らせると思っておりますので、このインターナビを使った交通安全対策は有効だと思っております。この点についての御所見をお伺いいたします。」

実現までに時間はかかりましたが、今後の交通安全につながることを大いに期待します。